

はあとふる

Vol

42

WINTER

Heartful 2013.1

地域の皆さまに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



第21回はあとふる学会

■特集

はあとふるグループの活動 地域に必要とされるために

医療法人永広会は
「特定医療法人」で「優良申告法人」です

インタビュー

理学療法士の仕事

トピックス

第21回 はあとふる学会&グループ忘年会開催
スタッフのユニフォームが新しくなりました

“Cafe” Infection Control

「ものの種 にぎれば いのちひしめける」

日野 草城

作者の日野草城は戦後、肺結核にかかります。病床から、透き通る目で小さな種に宿る命の輝きを見つけたのでしょ

私たちは人の生命、生活、人生に関わる仕事を生業としています。千の生命には千の生活があり、千の人生があります。それぞれにとって、かけがえのない生のあかしです。それが残念なことに少しでも損なわれたとき、私たちの出番となります。

私たちは、何がどう損なわれたのか理解し、治療やリハビリテーションを通じて、修復へのお手伝いをさせていただき役割を持っています。そしてその活動は、個々の人にとどまっていたのでは不十分だと感じています。ケアのつながりの延長線上で、地域へと広がりをもって展開していかなければならないと意識しています。

そのためにも「いのちひしめく」小さな種を、透き通る眼で感じ、大切に育み、慈しむ姿勢が不可欠です。

微力な私たちではありますが、全身全霊をもって、良質のケアを、地域の方々に送り届け続けるよう努力してまいります。



理事長 島田永和



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

はあとふるグループの活動が地域に根ざし、 地域に必要とされるために

はあとふるグループの使命は、「私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく 地域の方々に提供し続けます」です。

使命に近づくために、私たちは地域の良質で効率的なケアシステムの確立を目指して、はあとふるグループ内外の活動に情熱を燃やして取り組んでいます。

はあとふるグループは、疾病予防・健康増進、整形外科の急性期ケア、回復期ケア、生活期（維持期）ケアなど、リハビリテーションを軸にしたヘルスケアサービスを提供しています。それぞれの事業所は、担当する分野で専門職としての技術を高め、その上で多職種がチームで目の前の患者さま・ご利用者に向き合うことができるよう、質の向上に努めています。その一方で、地域の方々に向けた活動にも取り組んでいます。なぜなら、私

たちの提供するヘルスケアサービスが地域の方々にとって「その人がその人らしい生活」を楽しむために「あってよかった」と必要とされているものでなければ意味がないと考えるからです。

しかし、地域活動への関わりを持つほどに、様々な問題があつて、十分に進んでいないとも感じています。容易でなくとも、誰かが情熱を燃やし、枠を超えた働きかけをしなければ、それまでなかったところに新しい仕組みが育つはずがありません。そして、その活動は、国が進める地域包括ケア体制ともリンクすることだと考えています。

今号では、現在実施できている、はあとふるグループの各事業所の特色を生かした地域活動の一部をご紹介します。

■疾病予防健康増進

【Eudynamics はびきのヴィゴラス】

島田病院の地下1階にあり、トップアスリートから高齢者まで、幅広くトレーニングできる運動施設です。

地域への介護予防事業

羽曳野市、藤井寺市、松原市、太子町、河内長野市、大阪狭山市などの行政機関や老人会などへトレーナーを派遣し、要介護状態にならないための運動器機能向上トレーニング介護予防教室を行政より受託して行っています。



トレーナーを派遣しての介護予防事業

スポーツ団体へのトレーナー派遣

プロからアマチュアまでのスポーツ団体等へトレーナーを派遣し、障害予防やパフォーマンス向上等を目的としたトレーニング指導を行っています。シンクロナイズドスイミング・バドミントン・ゴルフ・トランポリンなどトップアスリートに対しても、トレーナーと理学療法士のペアで活動しています。



シンクロナイズドスイミングの練習風景

■急性期ケア

【島田病院 整形外科診療】

43床(内亜急性期10床)のリハビリテーション機能の充実した整形外科専門病院です。

公開医療講座

島田病院が地域の皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただくため、公開医療講座を開催しています。整形外科医師が、肩・腰・ヒザなどの関節の痛みや、骨折した場合の手術のことなどを始めとした整形外科に関するお話を地域の皆様にもわかりやすく、紹介しています。リハビリスタッフによる講演実技では、家でもできる予防体操を紹介しています。

南大阪整形外科・リハビリテーションネットワーク研究会

南大阪地域の整形外科医師の集まりで、顔の見える連携がとれるよう症例検討会や懇親会などを通して交流を深める場として活用しています。



公開医療講座

■回復期ケア

【八尾はあとふる病院】

回復期リハビリテーション病床59床、介護療養型病床60床のリハビリテーション・ケアを提供する病院です。在宅サービスとして、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション(定員71名)、介護サービスセンターはあとふる(居宅介護支援事業所)があります。

就労支援チーム

若い方の脳血管疾患の患者が増加しており、その中でも、後遺症が残る方の社会復帰が問題となっています。リハビリテーションで生活復帰ができて、その後、社会参加に踏み出すことができない方や「就労」という社会的役割を取り戻せないままの方がおられます。後遺症があっても、その人がその人らしく生活できるようにするためには、社会復帰に向けた適切な支援が必要です。医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・相談員でチームを構成し、入院中から職業評価・準備を念頭においたリハビリテーションをおこない、地域の各支援機関へ紹介をしています。

また、各支援機関と連携を強くし、中河内地区の高次脳機能障がいの方の就労支援ネットワーク構築にも関与していきたいと考えています。



就労支援チームのミーティング

ほっとケーキの会

患者さまから「同じ疾患の方や家族と接する場があれば」という声がかきつけとなって、平成19年に発足した「高次脳機能障がい当事者・家族の会」です。

現在は、月1回の定例会と、不定期での外出を行っています。定例会では、お茶を飲みながら近況報告をしたり、料理やスポーツなどでの交流、講師を招いて社会保障制度についての勉強会などの活動を行っています。最近では、会員である家族・当事者が大阪府高次脳機能障がい支援普及事業の研修で講師として招かれ、当事者としての立場でお話しされる機会が増え、地域での高次脳機能障がいの啓発につながっています。また、定例会後にご家族同士で集まって、食事に行かれるなど、会員間での交流も深まっているようにも感じています。

退院後、どのように対応して良いか悩まれている高次脳機能障がいの方のご家族の方、社会参加の場を必要とされている当事者の方など、是非支援スタッフまでご相談ください。



ボーリングを通しての交流会

その他の活動紹介

八尾市介護保険事業者連絡協議会施設サービス部会
八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス事業者部会
八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅支援事業者部会
八尾市地域ケア会議 定例会
八尾・柏原リハビリテーション関連職連絡協議会
大阪府介護支援専門員協会 八尾支部
中河内圏域地域連携バス連絡会小委員会、実務担当者会議及び幹事会
医療と介護の連携シンポジウム
南河内圏域脳卒中地域連携クリティカルバス小委員会
ほっと・ケーキの会

大阪府高次脳機能障害支援普及事業中河内圏域支援ネットワーク会議
阪南大学トランポリン部 メディカルサポート
履正社医療スポーツ専門学校 理学療法学科(非常勤講師として)
大阪訪問リハネットワーク 事務局
八尾市介護保険事業所連絡協議会 居宅サービス部会通所グループ
用和小学校学童保育 見学会
SCD友の会総会
介護者の会
大阪緊急連携ネットワーク 地域連携担当者会議
八尾運転教習所との関わり(運転免許チーム)

研修の 案内

「もっと知ろう! 高次脳機能障がいのこと」

日時: 平成25年2月26日(火)午後2時~4時30分/場所: プリズムホール 4階会議室1 参加費: 無料

内容: 第1部 講演「高次脳機能障害とは」 講師 山口 研一郎先生
第2部 パネルディスカッション パネリスト 当事者・家族・支援機関

■生活期(維持期)ケア——【介護老人保健施設 悠々亭を中心とした介護事業】

介護保険の対象者が利用できる施設で、入所・ショートステイ(100床)で自立と在宅復帰を支援する施設です。在宅サービスとして通所リハビリテーション(定員58名)、ヘルパーステーション悠々亭、ハートパークはびきの(訪問看護・訪問リハビリテーション)、ゆうゆうハウス(サービス付き高齢者向け住宅6室、通所介護23名)、介護サービスセンターゆうゆう亭(居宅介護支援事業所)、在宅介護支援センター悠々亭があります。

地域の医療機関を対象とした出前勉強会

支援相談員、連携担当看護師、介護福祉士、ケアマネジャーが医療機関に伺い「介護保険および介護老人保健施設の役割と連携について」の出前勉強会を開催しています。

悠々亭は、医療機関からの入所者が過半数を占めていますが、病院から老健に入所した場合、病院とは異なるケアになじめ



法人外の医療機関で実施した出前勉強会風景

ないご利用者や、退院時期に合わせた入所調整ができない場合があります。そのため医療機関の診療スタッフに悠々亭の介護保険を使った在宅復帰に向けた取り組みを理解してもらうことによって、ご本人、ご家族の理解にもつながって、スムーズに入所から在宅復帰ができるようになりました。

出張相談、見守り支援、家族介護者教室など

地域組織が主催する行事(会食会など)へ出向いて、介護に関する相談にのったり、トレーナーを派遣して、リハビリ体操などを行い、地域の要望に応えた活動を行っています。見守り支援は、一人暮らしの高齢者などで、介護保険などの制度利用を拒んでいる方などを対象にした見守り支援を継続的に行っています。

家族介護者教室は、悠々亭の会議室で、介護に関心がある方や介護に不安がある方、要介護者のいるご家族などを対象に勉強会をしたり、意見交換の場として活用しています。

その他の活動紹介

居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)向けの通所リハビリテーション見学会
羽曳野市介護保険事業者連絡協議会 施設部会 運営委員活動
施設間でのコミュニケーションや情報交換及び研修の実施 各種事業の参加
藤井寺保健所の難病患者地域支援対策推進事業
いきがいサロン5号館での介護予防トレーニング
大阪府介護支援専門員協会 羽曳野支部活動
羽曳野市介護保険事業者連絡協議会 ケアマネ部会 運営委員活動

羽曳野市医療・介護連携関係会議
羽曳野市地域包括ランチ業務
地域相談窓口業務
必要に応じて居宅訪問を行い、対象者の心身の状況など実態把握と必要なサービス紹介
地域ネットワーク関係会議
高齢者実態把握調査に基づく閉じこもり高齢者への訪問活動
認知症サポーター養成講座

その他にも全施設共通の取り組みとして、地域の方々に健康や病気の予防について考えていただく機会を作るイベントとして「看護の日」や中学生「職業体験」受け入れや一日看護体験事業なども開催しています。

はあとふるグループが現在取り組んでいる地域活動の一部のご紹介を行いました。私たちは、地域の方々や他の事業所などとの関わりの場を設けて、積極的につながっていきます。ご意見、ご感想は下記までお寄せください。

担当 医療法人 永広会 はあとふる編集部 嶋田(地域連携課) TEL072-953-1001(島田病院代表)

医療法人 永広会は「特定医療法人」に認定され、「優良申告法人」として表敬されました。

昭和26年に医療法人永広会は財団法人として生まれました。それから60年が経過した平成23年度には、特定医療法人に認定されました。特定医療法人とは「その事業が医療の普及と向上、社会福祉への貢献、その他公益の増進に著しく寄与し、かつ公的に運営されていることで国税庁長官の承認を受けた医療法人」です。

また、昨年11月には八尾税務署長から表敬を受けました。優良申告法人とは「経営内容が優良でありかつ適正な申告と経理処理が特に優良で、将来にわたり適正申告が期待できると認められた企業を表敬する制度」です。法人全体の約1%足らずと言われています。

これからも、良質で効率的なヘルスケアの提供に力を発揮し、社会に貢献する医療法人として努力を続けて参ります。

それぞれの患者さんが 望まれていることを追求するために、 地域に根付いた活動を心にとめています。



八尾はあとふる病院 理学療法士 金谷浩二

クラブ活動の経験から目指した、 理学療法士という仕事

私が理学療法士を志したきっかけは、高校時代のクラブ活動でした。高校から器械体操部に所属し、今までに経験したことのない激しい運動をする毎日でした。人一倍怪我も多く、怪我をする度に近くの整形外科クリニックで診てもらいました。スポーツ復帰までにかかる期間を示し、『今はこれさえ守ればここまででいい』、『固まってしまわないようにここをしっかりと自分で伸ばしておくように』、などのアドバイスが心強く、何度も支えられました。

高い専門知識を持つことが誰かの役に立ち、心の支えとなる。自分もそんな仕事が出来たら…と考えていた時の事を振り返ると、自分が憧れていた仕事に今就けている事がとても幸せな事だと思っております。

恩師から学んだリハビリテーションの真の目的

実際に働くようになってからも沢山の事を学びました。新米の頃は『リハビリ=身体を動かようにする事』が主体とっていましたが、身体を動かし鍛えるだけでは病気・怪我をした方の社会復帰支援に限界があると感じるようになりました。自分が日々している『リハビリテーション』とは一体どういうことを指すのか迷った時、恩師より『リハビリテーション≡自立とQOL』という言葉を通して色んな事を教わりました。リハビリとは、その人の自立度を上げることだけを目標にするのではなく、QOL (Quality Of Life)、つまり生活の質(もしくは人生の質)も考え、目標とするということです。そう考えると、人それぞれ『生きがい』や『生きていると実感する瞬間』は違いますので、一人一人の置かれている立場や状況を把握し、その上でその人が何を望まれているのかをとことん追求しないといけないと考えるようになりました。(私の場合は大好きな海に行けなくなるとちょっと寂しい人生になりそうです)

一人一人の患者さんに合った、 地域医療を目指します

当法人は整形外科疾患や脳卒中など、幅広い疾患を対象としますので、様々なシチュエーションを想定し、支援が出来る必要があります(スポーツ現場、生活場面、職場など)。その方の置かれている立場・状況や望みにより支援の内容も異なります。その人らしい支援を実践する為には、私たちも出来るだけ患者さんや周囲の方々から多くの情報を聞き出し、把握する必要があります。担当スタッフにはご希望など気軽にご相談下さい。

特集のページでお伝えしているように、八尾はあとふる病院は回復期ケアを主体とし、入院から在宅生活までサポートします。最近、病気や怪我により仕事出来るようになるか不安に思われている方も多く、その支援の需要が増加しております。それを受け、最近は就労支援チームとしての活動に力を入れ、病院内で行うリハビリテーションだけでなく、地域の支援機関とのパイプを作っているところです。

今後も、その人がその人らしい生活が営める地域医療を目指し、幅広い支援体制作りに力を入れてまいります。



趣味のダイビングで新年のあいさつ

平成24年12月16日(日) 第21回はあとふる学会開催

上本町にある「大阪国際交流センター」で、はあとふる学会が開催されました。日曜日にもかかわらず、グループ全体で283名の職員が参加し、口演発表24題、ポスター発表8題と、例年同様のボリュームでとても充実した学会発表でした。今年の学会テーマは「謙虚に、素直に、学ぶ心～すてきなプロフェッショナルになるために～」でした。はあとふるグループのスタッフとして求められるプロフェッショナルとは、「周囲の他の職種と連携し専門能力を発揮し、対象へのポジティブな成果をもって自己の満足とすること」です。それを踏まえた上で、更に各セッションにもテーマがあり、他職種との連携、チームワークを生かした第一セッション「チームアプローチ」、新たに導入したサービスや診療材料、業務を行う事で自ら経験したことを題材にした第二セッション「評価・検証」、昨年8月に電子カルテが導入されて1年を過ぎ、システム導入

に伴い診療の質や効果、業務変化を分析した第三セッション「診療支援」、術後や受傷した患者さまの経過や新しいリハビリテーションの物理療法器械や知識を分析した第四セッション「リハビリテーションケア」、患者さま・ご利用者の思いや意志を尊重して自ら学んだ第五セッション「QOL(「人生の質」または「生活の質」)」と計5つのセッションに分けられました。発表者は、行ってきた研究内容・成果・伝えたい思いをいかにわかりやすく、簡潔に、制限時間6分間という短い時間で発表できるかという緊張で不安な面持ちでしたが、発表後は、安堵感と達成感に満ちあふれていました。ポスター発表については、どのポスターもとてもわかりやすい内容で、デザインも年々クオリティが上がっており、学ぶことも見ることも楽しむことができました。



はあとふる学会に引き続き、 グループ全体の忘年会が開場をホテルに移して開催されました。

最初に、学会の各賞授賞式がありました。受賞者は一人で表彰を受けますが、それぞれ一緒に研究が業務改善を重ねてきた仲間への感謝を延べ、満面の笑みを浮かべていました。忘年会が始まると、学会の緊張感とは打って変わっての賑わいでした。さらに、特別ゲストの米田おさむさんの「ロカビリ

ーでリハビリ」の歌やスタッフによる出し物、毎年恒例の抽選大会により、さらに盛り上がりました。

スタッフにとって、今年1年の疲れを取ることでできる有意義な機会、心身共にリフレッシュした気持ちになりました。



こんなユニフォームで働きたい！ ファッションショー



かわいらしさに、みんなほっこり

スタッフのユニフォームが 新しくなりました

介護老人保健施設 悠々亭・通所介護 ゆうゆうハウス・ヘルパーステーション 悠々亭には、65名の施設ケアマネジャー・介護スタッフ・トレーナーが所属しています。また、八尾はあとふる病院には、40名の介護スタッフが勤務しています。年2回実施している職員満足度調査で「もっと動きやすい制服へ変更して欲しい」という希望が多かったことから、ユニフォームの検討が始まりました。11月にはホワイトベースのユニフォームからビビットなピンクとブルーのユニフォームに一新!!

いつも笑顔のスタッフが、もっとビビット(生き生きと)に軽やかに動き回りケアに携わっています。



はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

はあとふるグループの基本方針

- 1.「確かな知識と技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

大流行の兆し!ノロウイルスによる感染性胃腸炎

11月27日、厚生労働省は感染性胃腸炎が過去10年の同時期で2番目に多い水準であると都道府県に周知しました。ノロウイルスは感染力が強く、大規模な食中毒を発生させたり、人から人へ感染拡大することが問題です。

予防策としては、下痢や嘔吐など消化器症状がある人は調理に携わってはいけません。家庭で、そのような症状がある人は可能な限り、食品に触れる事を避けて頂きたいと思えます。また、手ふきタオルは他の家族と別にすることやトイレの後には石鹸と流水でしっかり手を洗って下さい。次に、下痢や嘔吐の家族を介護される方は、嘔吐物や便に触れた後はしっかり、流水と石鹸で手を洗って下さい。もしも、嘔吐物が床にこぼれた場合は、速やかに新聞紙で拭き取り、薄めた家庭用ハイターで床を拭き上げて下さい。

(詳しくは、厚生労働省のリーフレットを参照してください)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002pa7y-att/2r9852000002pac6.pdf>

さて、はあとふるグループでは、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が拡大しないために、感染対策を強化しています。嘔吐物の処理トレーニングや手洗いの啓発を目的に、感染対策委員会が中心となって研修会を開催しております。しかしながら、地域で流行している場合は、院外(施設外)から感染症が持ち込まれるリスクが上がります。そこで、皆さまへのお願いとして、発熱や下痢や嘔吐など感染症状のある方は、面会をお断りしております。

冬は、インフルエンザも流行しますので、不要不急の方や小学校未満の方は、できるかぎり面会を控えていただきますようご協力願います。



嘔吐物などを、使い捨てのマスク・手袋・エプロンなどを使用して処理をする感染研修。



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永成会

島田病院 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィグラス 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10